

# あいち防災通信

第20号  
発行

愛知県・あいち防災  
協働社会推進協議会

～大切な命が失われる前に～

「自助努力」を「率先垂範」し、みなさんで防災力を  
を広めていきましょう



あいち防災キャラクター  
防災ナマズン

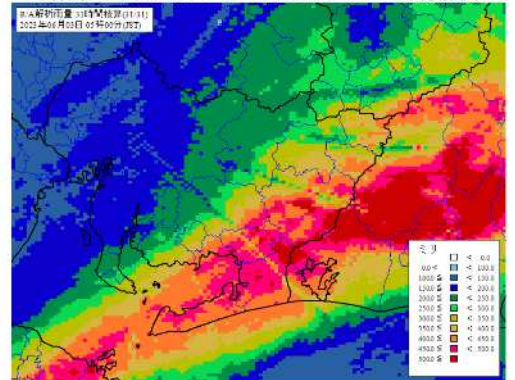
## ◆令和5年6月2日大雨による本県への被害

6月1日、大型で強い勢力の台風第2号接近に伴う梅雨前線の活発化により、「線状降水帯」が発生しました。愛知県では1日夜から雨が降り始め、2日夕方から夜にかけて線状降水帯が発生し、愛知県東部に長時間にわたり停滞し続けたことにより、同じ場所で激しい雨が降り続けました。

6月2日、愛知県東部に「顕著な大雨に関する愛知県気象情報」が発出され、豊橋市・豊川市に「緊急安全確保」が発令されました。

西三河南部や愛知県東部を中心に記録的な大雨となり、6月1日から3日までの降水量は、場所によっては500ミリを超える記録的な豪雨となり、住家被害や道路損壊などの被害が発生しました。

○解析雨量（6月1日22時～6月3日05時 31時間積算値）



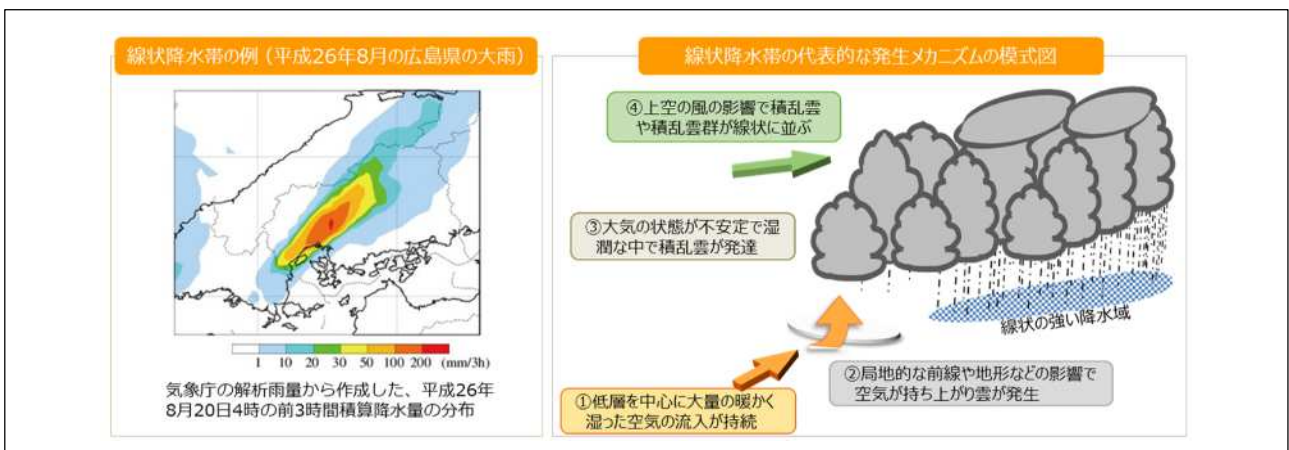
・解析雨量とは、気象レーダーとアメダス等の地上の雨量計により観測されたデータを組み合わせ、1km四方ごとに過去1時間の雨量を解析したものである。  
・この分布の値は雨量計で観測された値ではなく、レーダーなどの資料も含めて解析した値のため、実際の雨量と異なる場合がある。

出典：名古屋地方気象台



## ◆線状降水帯

「線状降水帯」とは、積乱雲（強い上昇気流によって垂直に発達した雲）が連続して発生し、上空の風の影響で帯のように長く連なったもので、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過、とどまる雨域のことです。線状に伸びる長さは50～300km程度、幅は20～50km程度で強い降水をとまいます。



毎年のように線状降水帯による顕著な大雨が発生し、数多くの甚大な災害が生じています。2022年6月から、気象庁が、線状降水帯発生「予測」情報の提供を始めました。ただ、線状降水帯は、まだ発生条件が未解明の部分が多いことから、現在でも正確な予測は難しいとされています。

しかし、線状降水帯が発生すると、**大雨災害発生の危険度が急激に高まる**ことがあるため、気象庁は、線状降水帯による大雨の半日ほど前から呼びかけを行います。市町村が発令する避難情報や大雨警報やキキクル（危険度分布）等の**防災気象情報と併せて活用し、自ら避難の判断をすることが重要**です。

## ◆令和6年能登半島地震

1月1日午後4時10分、石川県能登地方に**マグニチュード7.6、最大震度7**の地震が発生しました。

地震による家屋倒壊や、直後に発生した津波によって**甚大な被害**が出ました。地震直後から、自衛隊・消防緊急援助隊などが被災者の救急救助にあたるほか、全国の自治体から職員が派遣され、被災地支援を実施しています。

愛知県では、石川県志賀町（人口約1万8,000人、約7,900世帯）へ職員を派遣し、避難所支援・家屋被害認定業務等の支援にあたっています。

その中で、避難所支援について、実際に派遣された職員から、当時の状況について話を聞きました。



### ◎避難所居住スペースの状況



周囲の目が気になるため、避難所段ボールパーティションを設置したものの、このパーティションは高さ約120cmであったため、座れば周りの目から隠れるものの、プライバシー確保の点からは十分なものとはいえません。

### ◎避難所トイレの状況



トイレトレーラー・仮設トイレが設置されたものの、上下水道が不通であったため、人の手で水を汲み入れる必要があり、大変な労力を伴う作業でした。

救急救助・被災者支援の手が届くまでには時間がかかります。各家庭で**最低3日分、できれば1週間分の食料や飲料水、日常生活品等を備蓄**しましょう！

また、私たちの住む愛知県では、南海トラフ地震などの大規模な地震が危惧されています。今のうちに、**住宅耐震化、家具固定、ハザードマップの確認**など、いのちを守る取組を進めましょう！





## 家具などの転倒防止対策



能登半島地震では、家屋の倒壊などで多くの方が犠牲となりました。地震に対する備えの基本といえば、「**家具類の転倒防止**」です。今回の地震をきっかけに、家具固定への関心が高まっています。

愛知県では南海トラフ地震等の大規模地震の発生が危惧されており、ご家庭において減災に関する取組を進めていただくことが重要です。その中でも、**家具固定は身近で比較的簡単にできる取組として、高い減災効果が期待できます。**

家具固定と聞くと、「大変そう」、「やり方がわからない」、といったイメージがあるかもしれませんが、ホームセンター等で家具固定グッズを購入し、簡単に取り付けられる方法もあります。

いざという時のために、家の中を少しでも安全な場所にするため、まずはできることから始めてみましょう！



ダウンロードはこちらから→



## 愛知県家具固定相談窓口を設置し、家具固定の相談を受付中！

災害に備え、ご家庭や事業所が家具固定に取り組んでいただけるよう、愛知県では、家具固定に関する相談窓口を設置しています。

家具固定について疑問点などがございましたら、以下の相談窓口へお電話、FAX 又は Eメールで問合せ下さい。

### <愛知県家具固定相談窓口>

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

愛知県防災安全局防災部防災危機管理課啓発グループ（本庁舎2階北側）

電話：052-954-6700（ダイヤルイン）

月～金 午前9時から午後5時15分まで

（土、日、国民の祝日等の休日及び年末年始（12月29日～1月3日）を除く。）

F A X：052-954-6911

Eメール：[bosai@pref.aichi.lg.jp](mailto:bosai@pref.aichi.lg.jp)

主な相談内容

- ・自主防災会等を対象とした講習会等への家具固定推進員の派遣相談
- ・家具固定の方法や器具の紹介
- ・家具固定器具取付け支援制度の紹介 など



## 愛知県家具固定推進員の派遣を実施しています

愛知県では、家具固定推進員（家具等転倒防止対策を推進するボランティア）を地域の講習会やイベント、防災訓練等に派遣し、家具固定器具の取付実演や啓発活動を実施しています。家具固定推進員の詳しい内容や派遣申込みについては、「愛知県家具固定相談窓口」までお問合せいただくか、以下のWebページを御確認ください。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/bosai/kagukoteisuisinin.html>



## 地震保険・共済について～経済的な備えはできていますか？～

避難時の備えである「**防災グッズ（食料・飲料水の準備）**」の必要性はご存じだと思いますが、**経済的な備え**はできていますか？被災後の当面の生活を支えてくれる「地震保険・共済加入について考えてみましょう。

### ○地震保険（※）とは？

- ① 地震保険では、地震、噴火またはこれらによる津波を原因とする損害（火災・損壊・埋没・流失）に対して、保険金が支払われます。
- ② 被災後の当面の生活を支える保険です。地震保険の保険金だけでは必ずしも元通りの家を再建できませんが、生活再建に大きな役目を果たします。
- ③ 地震による火災及び倒壊などは、火災保険では補償されません。地震による損害に備えるには、地震保険が必要です。

### ○地震保険に加入するには？

- ① 地震保険で地震に備える場合、火災保険の加入が必要です。
- ② 地震保険の対象は、建物と家財です。建物と家財はそれぞれで加入する必要があります。
- ③ 保険料は、お住まいの地域（都道府県）と建物の構造によって決まります。また、建物の免振・耐震性能に応じた割引制度があります。

詳細については、損害保険会社または代理店へお問合せください。



出典：一般社団法人日本損害保険協会

※ **地震保険**は、政府と民間の保険会社が共同して運営する制度です。そのため、どの保険会社で地震保険に加入しても補償内容や保険料は同じです。**地震共済**は、地震保険と同様に政府と共同で運営しているものや、それぞれの共済で独自に運営しているものがあるため、加入する共済によって保障範囲や保障内容、掛金などが異なります。

## 地震保険・共済について～地震が起こってからでは遅い！～

2024年1月に発生した能登半島地震は、阪神・淡路大震災に匹敵するほどの「揺れ」があったとされています。最大震度7の揺れで、多くの建物が倒壊し、輪島市などでは大規模な火災が発生しました。

今まで、東日本大震災など**大災害が起きるたびに、地震保険の加入率（付帯率※）は高まっているもの**、都道府県や地域ごとのばらつきが大きくなっています。

**東日本大震災**の被災地である岩手、宮城、福島の3県については、震災後（2010年度から2011年度）で付帯率が**約12～18ポイント増加**しており、2022年度の宮城県の付帯率は**89.3%**となっています。また、2016年に**熊本地震**が発生した熊本県についても、震災後に**約11ポイント増加**し、2022年度は**85.9%**となっており、地震後に保険加入率が高まるのが現実です。

**愛知県の付帯率**については、2022年度の全国平均69.4%を超える**76.6%**でした。地震が起きてからでは遅いです！ぜひ、現在お住まいの住宅の火災保険・共済は、地震の被害に遭った際に補償を受けられる内容となっているか、確認しておきましょう。



※付帯率：当該年度に契約された火災保険（住宅物件）契約件数のうち、地震保険を付帯している件数の割合

出典：損害保険料率算出機構



## あいち防災フェスタを開催しました



南海トラフ地震の発生が危惧される中、県民の防災意識の高揚、家庭における災害対策の促進及び防災ボランティア活動への理解促進を図ることを目的として、「あいち防災フェスタ」を11月11日（土）に、名古屋港ガーデンふ頭（名古屋市港区）で開催しました。

今年は、令和5年度大規模津波防災総合訓練（主催：国土交通省・愛知県・名古屋市・名古屋港管理組合）、愛知県津波・地震防災訓練と同時開催し、約3,000名の方にご来場いただきました。

ステージイベントでは、SKE48による防災クイズ、捜索救助犬によるデモンストレーションをはじめ、陸上自衛隊の演奏会などが行われました。また、各展示ブースでは、来場者に楽しみながら防災意識を高めてもらえるよう、家具固定・防災対策の啓発、防災関係車両の展示などを実施しました。



## 令和5年度愛知県防災貢献団体表彰 受賞団体の紹介

「あいち防災フェスタ」において、令和5年度愛知県防災貢献団体表彰を行いました。

地域防災力の向上を図り、防災協働社会の実現を目的として、地域社会に活動基盤を持つ自主防災組織や企業などの中から、優れた工夫・アイデアを防災活動に取り入れるなど、防災対策の充実や防災意識の高揚に積極的に取り組んでいる団体を表彰しました。



榎木団地自主防災会  
（日進市）



柿並区自主防災会  
（美浜町）



三ヶ根通信ボランティア  
（西尾市）



向山校区防災会連絡協議会  
（豊橋市）



特定非営利活動法人やらまいかまちサポート  
（西尾市）

## 防災人材交流シンポジウム「つなぎ舎」を開催しました

東北と中部の防災・減災活動に取り組む NPO、ボランティア、学生などの防災人材が一堂に会し、東日本大震災の経験をこの地域につなぐとともに、防災人材同士の交流を通じて地域活動の活性化につなげる場として、12月9日防災人材シンポジウム「つなぎ舎」が開催されました。

今回は、新たな試みとして8月と11月に事前ワークショップを開催し、若手とベテランの防災人材のつながりを深めることができました。

第1部ドラマ上映会の後、第2部では、3.11メモリアルネットワークの企画として、語り部の方からの震災伝承活動の現在を報告いただいたほか、第3部のパネルディスカッションでは事前ワークショップの成果を発表し、参加者同士の意見交換を行いました。

○主催：防災人材交流シンポジウム実行委員会

○共催：公益社団法人 3.11メモリアルネットワーク、一般社団法人日本損害保険協会中部支部、中日新聞社、一般社団法人国立大学協会

○開催日時：12月9日（日）10：30～17：00

○場所：中区役所ホール

○参加者数：258名（一般来場者218名＋スタッフ40名）

○内容：【第1部】ドラマ上映会「明日をあきらめない・・・がれきの中の新聞社」

【第2部】東北の震災伝承活動のいま ～3.11の記憶と教訓を未来につなぐために～

⇒動画 URL：<https://youtu.be/KeWIh9UUBOI>

【第3部】パネルディスカッション ～東北と中部が地域をつなぐ、世代をつなぐ、未来につなぐ～

⇒動画 URL：<https://youtu.be/5KxmJ94MOV8>



～事前ワークショップ～



～パネルディスカッション～



～屋内展示～



～屋外展示～

## 2023年度防災人材育成研修「防災・減災カレッジ」

南海トラフ地震等の大規模災害に備えるため、2012年度から防災人材育成研修「防災・減災カレッジ」を開催しています。2023年度も前期・後期併せて全21講座を実施し、延べ2,117名の方が修了され、県民の皆様への「防災人材育成」及び「防災普及啓発」を行うことができました。

2024年度も運営の改善、講義内容の充実を図り、防災人材育成を引き続き推進していく予定です。**皆様の積極的な御参加をお待ちしています！**

なお、**2024年度の開催案内は、5月頃に掲載するWebページを御確認ください。**

(<http://gensai.nagoya-u.ac.jp/kyoso/college.html>)

○主催：あいち協働社会推進協議会、あいち・なごや強靱化共創センター



～講義～



～グループワーク～



～DIG演習～



～防災・減災ツアー～



## 「あいち防災人材」認証&表彰制度にご応募ください！

### <「あいち防災人材」認証>

地域の防災力向上のため、防災・減災カレッジを受講して得た知識などを生かし、防災・減災に関する自主的な取組を実践された方を「あいち防災人材」として認証する制度を2023年度よりスタートしました！

#### ○取組のイメージ

- 家庭：食料の備蓄、家具固定や耐震化を実践 など
- 企業：職場の防災訓練やBCP作成への協力、防災グッズの開発 など
- 地域：地域の避難計画作成、ボランティア活動に参画 など



#### ○応募方法等

以下のあいち・なごや強靱化共創センターweb ページを御確認ください。

<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/kyoso/college.html#authentication>

認証された方には、あいち防災人材証カードを交付します。

個人で何度も応募可能で、応募件数が増える毎に、カードの星マークが追加されます。



### <「あいち防災人材」表彰>

前述の認証を受けた方を対象に、地域防災力の向上に特に貢献し、他の模範となると認められる優れた取組を実践された方を表彰します！

#### ○表彰の種類

- あいち防災人材大賞 1点
- あいち防災人材奨励賞 数点



#### ○応募方法等

以下のあいち・なごや強靱化共創センターweb ページを御確認ください。

<https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/kyoso/college.html#commendation>

応募は自薦・他薦を問いません。被表彰者は、審査会で審査の上決定します。

防災・減災カレッジの開校式（6月末頃）にて表彰状授与式を行う予定です。



みなさまのご応募を、ぜひともお待ちしております！

## 愛知県基幹的広域防災拠点の整備の推進

愛知県では、南海トラフ地震等の大規模災害時に、全国から派遣される自衛隊、消防、警察等の支援部隊や、国からの支援物資を受入れ、県内全域に供給する、「愛知県基幹的広域防災拠点」の整備を進めています。

整備計画地は、空港と高速道路の二つに直結する、名古屋空港北西部（豊山町青山地区）で、規模は19.2haとなります。

また、平常時は、消防学校及び公園としての活用を計画しています。消防学校では、消防職員等の育成の他、訓練施設を活用した地域の防災教育・人材育成の場としても開放していきます。公園では、多くの方にご利用いただけるよう、運動施設等の他、防災関連イベントや防災ビジネスの発信の場としても展開していきます。

県土全体の災害対応力のさらなる強化を図り、「愛知県基幹的広域防災拠点」が中部圏の拠点としても貢献できるよう、2026年度末の完成に向け、整備を推進しています。

## 防災拠点全体

## 災害時コンセプト 『中部圏にも貢献する県内全域を対象とした後方支援拠点』

イメージ

※図が具体的に描かれた拠点整備のイメージを「見える化」した資料であり、事業提案については、この資料に向かわれます。よりよい提案を募集する。

- 【ライフライン確保】**
- 1週間の電力確保
    - ・都市ガス・軽油の併用によるガスタービン方式の自家発電機
  - 2週間の飲料水・生活用水確保
    - ・上水の耐震管を整備（小牧市引込み）
    - ・飲料水兼用の耐震貯水槽等を整備
    - ・訓練時に使用する水を地下タンクで貯水し再使用。
  - 通信の確保
    - ・次世代高度情報通信
    - ・公衆無線LAN

- 車両動線**
- ・各部隊、物資搬送車両等の動きやすさを考慮、車両混雑の解消
  - 物資車両動線
  - 部隊車両動線



**豊山町エリア**  
(地域住民の避難所として機能)



**SCU (教育棟)**  
・広域搬送拠点臨時医療施設 (SCU) として早期に体制確立

**拠点本部機能 (管理・教育棟)**  
・本拠点の各災害対応業務を統括  
・「拠点指揮運用本部」としてオペレーションルームを設置  
・各防災関係機関の活動スペースを確保  
・免振構造とし、防災対策本部の代替機能確保



**自衛隊ベースキャンプ**  
・要員：約1,000人、車両：約200台  
・宿営用天幕、指揮所、給油施設



**警察ベースキャンプ**  
・要員：約2,000人  
・車両：約200台  
・装備資機材等保管庫 700㎡

**消防ベースキャンプ**  
・要員：約1,600人  
・車両：約400台  
・市と連携した知識・技術習得、部隊連携による消火力、災害対応力の強化

**TEC-FORCEベースキャンプ**  
・要員：約230人、車両：約90台

**活動要員宿泊室 (宿泊棟)**  
・拠点活動要員 (県本部機能、物流拠点、DMAT本部の各要員340人) の宿泊室確保  
・廊下等を活用、更なる要員受入れ可能  
・他県からの応援要員の受入 (今後検討)

**自家給油施設**  
・備蓄容量20,000L  
・救助車両等へ給油

## 防災公園エリア

## 平常時コンセプト 『防災人材育成の聖地・地域に愛される防災公園』

イメージ

※図が具体的に描かれた拠点整備のイメージを「見える化」した資料であり、事業提案については、この資料に向かわれます。よりよい提案を募集する。

運用方針：防災啓発、防災ビジネスの拠点として、イベント時に消防学校と一体的に運営

### 人工芝広場

- ◆健康づくり・癒し
- ・アウトドア
- ・フィットネス
- ・ベタック、モルック



- ◆にぎわい
- ・防災イベント
- ・屋外イベント
- ・集客性のある大型イベント



### 舗装広場

- ・テニス
- ・バスケット



### 多目的広場①②

- ・サッカー
- ・野球



### 芝生広場

- ・野球やサッカーのアップフィールド
- ・ファミリー層のレクリエーション

### 神明公園

- ◆イベント
- ・防災サバイバルキャンプ (防災イベント)
- ・デイキャンプ場
- ・県内小中学生の課外学習、防災学習の場としてイベントを開催
- ◆プレイロフト
- ・現況の機能を代替
- ・地元から愛される現在の現神明公園の機能をアップデート (プレイロフト、健康器具、駐車場など)

### 屋内運動施設

- ◆スポーツ
- ・インドアテニスコート等室内公式戦が可能な施設



- ・フットサル・ボルダリング
- ◆防災ビジネス
- ・防災企業展・防災スタートアップ
- ・産業振興、新産業創出の場を各企業に提供



**教育棟**

- ・防災・減災の普及、啓発及び人材育成を担う施設
- ・県職員が常駐し、防災啓発、防災ビジネスの拠点として運営
- ・防災フェスタ、県総合防災訓練をはじめ、県民参加型の防災各イベントを定期的に実施
- ・小中学生などを対象とした防災普及啓発や近隣大型施設と連携した合同イベントなどを実施。
- ・進化し続ける防災協働社会実現に向けた県の防災の聖地として運用



## ゼロメートル地帯における広域防災活動拠点の整備の推進

愛知県は国内最大のゼロメートル地帯を有することから、南海トラフ地震等の発生時に、堤防沈下や津波による浸水被害から県民の生命を守るため、浸水区域に残された人々をボートやヘリコプターにより迅速に救助し、浸水区域外へ救出する広域的な防災活動拠点の整備を弥富市・海南こどもの国、西尾市行用町、豊橋市・国道23号豊川橋料金所跡地の3箇所で進めています。（愛西市・旧永和荘跡地においては令和5年3月に供用開始しています。）

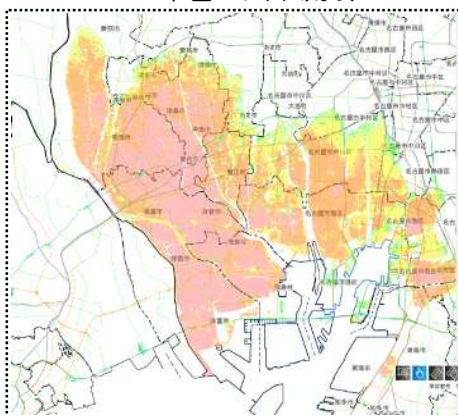
〈拠点運用イメージ〉

- 避難ビルに避難した人々や自宅の2階などに取り残された人々を、ボートやヘリコプターにより迅速に救助
- 効率的な救助活動を実施するため、救助者を広域防災活動拠点へ救出
- 救出された救助者を大型ヘリコプターにより、浸水地域外（内陸地）へ搬送

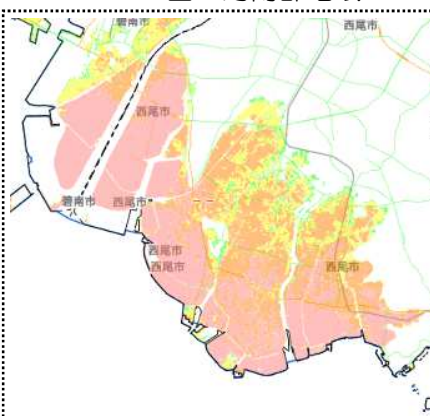


〈広域防災活動拠点整備箇所〉

▼木曾三川下流域



▼西三河南部地域



▼東三河南部地域



## 防災教育センターの体験講習会

近年発生した地震では、けがをした人のうち約30～50%の人が、家具類の転倒・落下・移動により負傷しています。家具類の転倒防止は、家庭や職場でできる効果の高い対策です。

愛知県では、南海トラフ地震等の大規模地震に備え、地域における家具固定の取組や自主防災活動を促進するため、以下のとおり愛知県防災教育センター（県消防学校内）において、県民の皆様からの申請に基づき、**家具固定器具取付・ガラス飛散防止フィルム貼り体験講習会**始め3つの体験講習会を開催しています。

体験講習会の詳しい内容や申込みについては、以下のWebページを御確認ください。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/bosai/bousaikyouikusenta30.htm>



## 民間事業者と連携した防災啓発活動の実施

今年は、民間事業者等と連携し、ショッピングセンターやハウジングセンター、各種イベントにおいて啓発ブースを16回、延べ26日出展し、啓発チラシや家具等転倒防止グッズの配布等による家具等転倒防止対策の啓発活動を実施しました。また、民間事業者等のネットワークを活用し、啓発チラシを7,200部配布するなど、家具等転倒防止対策の推進を図っています。



## 防災ボランティア活動支援事業に係る寄附金を募集しています。

「**防災ボランティア**」は、被災者に寄り添い、被災地のニーズに即して、きめ細かな活動を展開するなど、被災者が生活を再建し、被災地が復興を遂げていく上で、**欠かせない存在**となっています。

特に、南海トラフ地震などの広域的な災害時には、全国からボランティアを受け入れることはもとより、他の地域での災害時にも県内のボランティアを送り出す、県域を越えた相互支援の取組を促進していくことが極めて重要です。

そこで、愛知県では、ボランティア活動の活性化に向け、社会福祉法人愛知県社会福祉協議会が、災害時に実施する防災ボランティア活動支援事業に要する経費を助成することとしています。

あわせて、**ボランティア活動は、自助と公助をつなぐ広域的な共助の活動として、広く普及を図り、社会全体で支えていくことが重要**なため、**県内外から広く「防災ボランティア活動基金」への寄附を募集**しています。

御寄附を御検討いただけましたら、愛知県防災安全局防災部防災危機管理課啓発グループまでご連絡ください。

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/bosai/20210329-kikin.html>



あいち防災通信に関する問い合わせは、  
愛知県防災安全局防災部防災危機管理課啓発グループまで 電話 052-954-6190